

皇學館大学共催講座のご案内

平成29年度前期(4月～9月)

日本人の心のふるさと伊勢の地で、神道学を中心に学術研究活動で優れた実績を残す皇學館大学。
神道の入門やその歴史など日本文化の核心に触れていただき、「日本文化の歴史」に親しんでいただけます。

皇學館大学



皇學館大学は、伊勢の神宮における長い神道研究の伝統を源流としていますが、明治15年、神宮祭主久邇宮朝彦親王の令達によって、神宮の学問所である林崎文庫に開設された「皇學館」を直接の起源としています。明治33年に神宮祭主の賀陽宮邦憲王からいただいた令旨には、わが国の歴史に根ざした道義と学問とを学び、実際の社会の中で実践し、文明の発展に貢献するという、まさしく本学の建学の精神が記されています。その根本精神は、現在も皇學館大学の中に脈々と受け継がれています。

【皇學館大学のご案内】

文学部(神道学科・国文学科・国史学科・コミュニケーション学科)
教育学部(教育学科)・現代日本社会学部(現代日本社会学科)
大学院(文学研究科・教育学研究科)・専攻科(神道学専攻科)
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704 伊勢市駅(JR・近鉄)、宇治山田駅(近鉄)より徒歩約15分
TEL: 0596-22-0201 FAX: 0596-27-1704 ホームページ: <http://www.kogakkan-u.ac.jp/>



古事記を読み解く(開化天皇～景行天皇の段)

『古事記』成立は712年ですが、681年に開始していた『日本書紀』編纂にも加わっていたのが『古事記』筆録者の太安万侶です。『日本書紀』は、早くより史書を編んでいた中国に示すことで、日本を「倭」ではなく「日本」と変えさせることを目的とした書です。同書は純粋な漢文にしようとするあまり、語り継がれていた古語への配慮を欠きます。そのような書の成立に不安を感じて編まれたのが『古事記』です。したがって本書は漢訳して動詞が先となり目的語が後となる『日本書紀』の語順とは異なり、日本語の語順にするため一字一音の万葉仮名を多用しています。そういった書き方は古語を軽率に漢語訳し、古意がわからなくなってしまうことを恐れたものです。これにより古語が『古事記』に残されました。その点に留意して『古事記』開化天皇から景行天皇までを読み解きます。

【講師】 文学部神道学科教授
白山 芳太郎

【曜日・時間】 第2(土)15:30～17:00
※8月のみ7月29日(土)

4月 8日(土) 開化天皇
5月 13日(土) 崇神天皇
6月 10日(土) 垂仁天皇上
7月 8日(土) 垂仁天皇下
7月 29日(土) 景行天皇上
9月 9日(土) 景行天皇下

【受講料】 月1回 6ヵ月 7,128円



「神道と仏教」— 神仏習合と神仏分離 —

長い間、神仏習合の状態にあった日本の宗教状況は、慶応4年(明治元年、1868年)3月以後、新政府の出した神仏判然令(神仏分離令)によって大きな変革を迎えた。今期の「神道と仏教」の講座では、まず初めに、神仏分離令が出された翌月、かたや戊辰戦争が進行しているさ中に、日本各地でどのような事態が生じていたのか、神仏分離令の波及のようすをみたい。南九州にある高千穂の峰は天孫降臨の山とも伝えられている。6月の講座では高千穂の峰とそれを祀る霧島神宮等、麓の神社における神仏習合と神仏分離をみる。7月には神仏分離の結果、寺院が一つもなくなった奈良県の十津川村を紹介したい。9月には、伊弉諾尊が国生み、神生みなどの功をすべて終えられ、「幽宮」を造って住まわれたという伝承をもつ淡路島の伊弉諾神宮における神仏習合と神仏分離を紹介する予定です。

【講師】 文学部神道学科教授 河野 訓

【時間】 15:30～17:00

4月22日(土) 1868年4月
6月24日(土) 霧島神宮における神仏習合と神仏分離
7月22日(土) 十津川村における神仏分離
9月23日(土・祝) 淡路島・伊弉諾神宮をめぐる神仏習合と神仏分離

【受講料】 全4回 4,752円

『日本書紀』を読む

『日本書紀』は、養老四年(720)に撰進された我が国最古の官撰正史で、平成三十二年(2020)には撰進千三百年を迎えます。『日本書紀』は全三十巻、神代から持統天皇の御代までを収録しています。今回は巻第三を読みます。

巻第三は神武天皇一代記で、即位前記が大部分を占めます。日向を出発、瀬戸内海を進み、難波に到着。河内から大和に向かいますが、大和に入ることができず、紀伊半島を迂回して熊野から大和を目指します。その後、大和を平定、橿原宮で即位されます。本講座では、神武天皇の足跡をたどりながら、『日本書紀』を味読したいと思います。

【講師】 文学部国文学科教授 大島 信生

【時間】 15:30～17:00

8月 5日(土) 神武天皇1-日向出発-
9月 2日(土) 神武天皇2-熊野上陸-
9月 30日(土) 神武天皇3-大和平安-

【受講料】 全3回 会員:3,564円、一般:4,860円
※1回単位でも受講できます。
会員:各1,188円、一般:各1,620円

1日・短期講習会

※入会金は不要です。

4/1
(土)

伊勢参宮(餅)街道と菓子

江戸時代以前、日本人の巡礼センターであった伊勢大神宮への道、参宮街道沿いには多くの餅を売る店があり、「餅街道」とも呼ばれていました。お蔭参りの最も多い文政13年(1830)には、日本人の六人に一人が参宮しました。本年、伊勢で開催される菓子博にあわせ、餅街道が形成された意義や、他のお菓子類についても述べてみたいと思います。

【講師】非常勤講師(元文学部国史学科教授)
岡田 登

【時間】15:30~17:00

【受講料】会員:1,188円、一般:1,620円

4/15
(土)

古文書を読もうー浪人となった或る戦国武将の悲哀ー

信長・秀吉・家康が数多くの大名を取り潰した結果、近世初期にはおびただしい数の浪人が生まれました。今回はその一人である吉岡伝左衛門という浪人に宛てた書状(皇學館大学所蔵文書)を読んで、いつの時代も変わらない職探しの厳しさを見てみたいと思います。

【講師】文学部国史学科教授
岡野 友彦

【時間】15:30~17:00

【受講料】会員:1,188円、一般:1,620円

5/6
(土)

続日本紀を読む~神宮再建~

延暦十年(791)八月の火災で焼失した内宮(皇大神宮)は、どのように再建されたのでしょうか。『続日本紀』最後の巻に記された火災と再建の記事を読みながら、平安初期の臨時遷宮を追いかけてみたいと思います。

【講師】文学部国史学科准教授
遠藤 慶太

【時間】15:30~17:00

【受講料】会員:1,188円、一般:1,620円

5/27
(土)

伊勢神宮ー歴史の聖地・神話の聖地ー

古代の人々は、解き難い問題を残しています。その一つが「聖地」という謎です。アニメの世界ではなく、目の前に実在するのですが、なぜ、いつから聖地がそこにあるのかを尋ねると手がかりは消えてしまいます。この問題を伊勢の神宮から考えてみましょう。

【講師】文学研究科神道学専攻教授
櫻井 治男

【時間】15:30~17:00

【受講料】会員:1,188円、一般:1,620円

7/1
(土)

皇室の基礎知識

皇室を戴いて長い歴史を重ね、天皇を象徴として仰ぐ日本人として、皇室に関する知識は不可欠です。この講座では、歴史的で特殊な用語や、儀礼やしきたりに関することなど、皇室の基礎知識をわかりやすく説明します。

【講師】文学部神道学科教授
松本 丘

【時間】15:30~17:00

【受講料】会員:1,188円、一般:1,620円

8/26
(土)

なぜ、若者は熊野を目指すのか?~聖地巡礼の現代的な変容から~

最近の神社ブーム。その特徴のひとつに、若者世代の参拝をあげることができます。なぜ、若者は神社を目指すのでしょうか。そこには聖地をめぐる意味に現代的な変容を見ることができます。今回は若者の意識から「熊野のいま」を考えてみましょう。

【講師】教育開発センター准教授
板井 正斉

【時間】15:30~17:00

【受講料】会員:1,188円、一般:1,620円

※各講座とも、開催場所は近鉄文化サロン阿倍野です。

お申込み・お問合せは「近鉄文化サロン阿倍野」まで

掲載講座
専用ダイヤル

06-6625-1771

[ホームページへのアクセスはこちら]

〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-1-40 and4階 [受付時間]10:00~20:00(日曜・休講日は10:00~17:30)
※休講日 3/29(水)~3/31(金)、4/29(土・祝)~5/5(金・祝)、8/12(土)~8/16(水)、8/31(木)、9/29(金)、9/30(土)
※8/13(日)~8/15(火)は受付業務を休ませていただきます。

ご入会金は

●定期講座を初めてお申込みの方は、受講料のほかに、入会金5,400円を申し受けます。
※入会金/3年間有効、全講座共通

受講
お申込みは

●定期講座は開始月の前月28日までに(1日・短期講習会は実施日の5日前までに)、受付に手続きをお済ませください。
●各講座とも満員になり次第締め切らせていただきます。
※ただし、一定の人数に満たない場合は、講座を中止させていただくこともございます。
●お支払いには、コンビニ振込みがご利用いただけます。(振込手数料別途)詳しくは、お申込み時にご確認ください。



※価格は、消費税を含んだ税込価格を表示しています。